

ディー・ディー

D.D. (今村 哲+染谷亜里可) とゲストのお二人が出展作品のこと、アートと建築、その狭間の作品について、いま興味があることなどについて、トークをします！

アーティストトーク

2025年 **10月18日** (土)

14:30 ~ 参加無料

シーラカンス毛利武士郎記念館にて

記念館入館料 300 円 (本展に限り高校生まで無料)



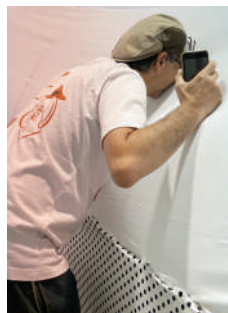
D.D. 染谷

トークの前に本展の D.D. 作品をご体験ください。11 時より開館します

《Neither, But Both どちらでもなくどちらでもある》 屋内作品

《Casa Come Te あなたの様な家 望郷のマラパルテ邸》 晴れていれば屋外に設置

体験者が多く、混みあった場合にはトークの開始時間および終了時間がおそくなることをご了承ください。早めにご来館くださいますようお願いいたします



D.D. 今村

ゲスト

千葉 真智子 さん

豊田市美術館学芸員。「抽象の力」(2017年)、「交歓するモダン」(2022年)、「しないでおく、ことー芸術と生のアナキズム」(2024年) など企画多数。

平野 千枝子 さん

山梨大学教授。ゴードン・マッタ＝クラーク、ダン・グレアムの研究者。「ゴードン・マッタ＝クラーク展」東京国立近代美術館 (2018年) 企画構成。

D.D.

今村哲と染谷亜里可によるアーティストユニット。それぞれの作家活動をつづけながら、2011 年よりユニットによる発表を開始。「内が外より大きい」などのパラドキシカルな要素を含んだ、体験型の構造体をふたりで制作している。おもに名古屋で活動。

本展の作品について

初の北陸での展示となる本展では《Neither, But Both どちらでもなくどちらでもある》(2025) と《Casa Come Te あなたの様な家》(2023) を展示。前者では、伸縮布と巨大なボールによるソフトな構造体と衣服によって「閉じているということの濃度」について、ユーモラスに考察。添えられたテキストとともにご体験ください。

後者はイタリアに実在するマラパルテ邸の縮小モデルとそこにまつわるオデュッセウスの物語が富山湾を見下ろす毛利武士郎記念館の美しいロケーションによって再び展開される。こちらものぼったり中に入ったりできます。



◀ 本展「行き交うドロップ」展 (9/27~11/3) 公式案内はこちら

アート作品です

らんぼうに扱わないようにお願いします

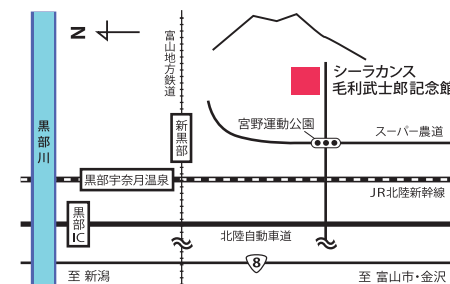
当初予定していた作品《BonBon Coming and Going 行き交うドロップ》は諸事情があり本展では展示しておりませんことをご了承ください

会場

シーラカンス毛利武士郎記念館

富山県黒部市栗寺41番地

黒部I.C./黒部宇奈月温泉駅より車で10分
交差点「宮野運動公園」より約2km山を登ります



問い合わせ先

柳原幸子 090-2120-3015 加藤陽子 080-5122-2500 ensokai.nagoya@gmail.com



《Neither, But Both どちらでもなく どちらでもある》(2025)
シーラカンス毛利武士郎記念館



《Casa Come Te あなたのよう家》
望郷のマラバルテ邸 (2023)
シーラカンス毛利武士郎記念館